

保護者との関係構築力の育成を目指す ブレンディッドラーニング教材の開発

Development of Blended learning Materials Aimed at Fostering Relationship-Building Skills with Parents

小原 敏郎、恒川 丹、三浦 主博

Toshio OHARA, Akira TSUNEKAWA, Kimihiro MIURA

キーワード：ブレンディッドラーニング eラーニング教材
保護者との関係構築力 保育者養成教育

I 問題の所在及び目的

1. 保護者との関係構築力の育成について

近年、保育者（幼稚園教諭・保育所保育士・保育教諭など）のリアリティ・ショック（Reality Shock、以下、RSと表記）や早期離職が問題となっており、その要因として保護者との関係をあげる者も多い。例えば、小原他（2017）の保育者のRSに関する研究では、「保護者支援の難しさ」がRSを構成する要因として見出されている。また、20代の若手保育者においても、保護者支援に苦手意識を抱えている保育者が多いことが示されている（成田, 2014; 中平他, 2014; 片山, 2015）。

一方で、保育者養成教育では、保育学生が実際に保護者と関わる機会が限られているのが現状である。保育現場の実習においても保護者とあいさつを交わす程度で、それ以上の関わりの経験は一部に留まっているという指摘もある（石田・田中, 2011）。このような状況を鑑みると、保育者養成教育において実践的な保護者との関係構築力の育成を目指す教材の開発が課題といえる。

2. ブレンディッドラーニングの現状・定義

そこで本研究で着目するのが、学生が主体的かつ効率的に学べる教育プログラムとしてeラーニングと対面授業を取り入れたブレン

ディッドラーニング（Blended Learning、以下、BLと表記）である。Horn・Staker（2017）は、BLについて、「少なくとも一部がオンライン学習からなり、生徒自身が学習の時間、場所、方法またはペースを管理する正式な教育プログラム」と記述している。さらに、Horn・Staker（2017）は、一言でBLといっても、さまざまなモデルが存在するとし、「ローテーション・モデル」「フレックス・モデル」「アラカルト・モデル」「通信制教育」といった4つのモデルを提示している。そして、多くの学校がBLのモデルを複数組み合わせることで実施していると述べている。

国立情報学研究所の「CiNii」Researchによって2010年～2022年9月までの記事を検索した結果、「教師＋Blended Learning」では22件、「看護＋Blended Learning」では19件の論文等が見られた。例えば、直接的な対人援助技術の習得が不可欠な看護師養成の領域では、疑似体験を促す動画視聴やグループワークなどの対話型学習を組み合わせることで応用力の獲得を目指すBLプログラムの効果を検証する研究（例えば、立野他, 2018; 山住他, 2018）がなされ始めている。

3. 保育者養成教育におけるBLの現状

一方で、同じく国立情報学研究所の「CiNii」Researchによって2010年～2022年9月までの期間で、「保育＋Blended Learning」を検索す

ると、結果は1件のみであった。この少なさの理由は学生側の要因としては、オンラインでの予習、復習を行う時間を確保することが難しい、教員側の要因としては、従来型の授業形態からの変更が難しい、といったことなどが考えられる。ただし、明確な理由は分らない。他方で海外の状況を見てみると、保育者養成におけるBLプログラムの有効性を検討した研究 (Garner, R. & Rouse, E., 2016)、BLが養成教育において効果的な教育方法として成立するための予測要因を量的に検討した研究 (Martín-Martínez, L., Sainz, V., & Rodríguez-Legendre, F, 2020) など、実践や研究がなされ始めている。

2020年からの新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行の中、eラーニング教材の活用も以前より進んでおり、保育者養成教育においても効果的なBLプログラムを開発する必要があると考えられる。

4. 教材開発、授業展開について

これまでの研究を概観すると、保育者養成教育の領域ではほとんどBLの教材開発がなされていないことが明らかになった。一方でHorn・Staker (2017) の指摘のように、一言でBLといっても、さまざまなモデルが存在する。ただし、共通していることは、オンライン学習が取り入れられるという点である。つまり、BLで活用できるeラーニング教材をどのように開発するかが、重要になるといえる。

5. 本研究の目的

本研究の目的は、第1に、BLプログラムのオンライン学習のコンテンツであるeラーニング教材を開発することであり、第2に、保育者、保護者に作成した動画教材を視聴してもらい、回答者の評価をもとに教材の改善につなげていくことである。

II 方法

1. eラーニング教材の開発

2021年4月～9月の期間、本研究ら3名がインストラクショナル・デザイン (Instructional

Design: 以下ID) プロセスの一般形であるADDIEモデル (Gagne, R. E et al, 2005) を援用して開発を行った。ADDIEモデルとは、分析 (Analyze)・設計 (Design)・開発 (Develop)・実施 (Implement)・評価 (Evaluate) の頭文字をとったものである。ADDIEモデルを用いることで、分析、設計、開発、実施、評価し、さらに各段階に改善を加えていくことで、より完成度の高い教材開発が可能となる。

2. 作成したeラーニング教材の評価

2021年10月～12月の期間、保育所・幼稚園・認定こども園に勤務している保育者14名、乳幼児を育てている母親12名にアンケート調査を実施した。本研究者が開発した保護者と保育者が関わる動画教材を視聴してもらい、保育者には「あなたならどのように言葉かけしますか」「その理由を書いてください」と回答を求め、保護者には、「保育者にどのように言葉かけしてもらいたいのか」「その理由を書いてください」と回答を求めた。さらに、保育者、保護者ともに「課題を行った感想を記入してください」と回答を求めた。

3. 倫理的配慮

アンケート調査に関しては、回答は自由意思であり、調査に回答しないことによって不利益を被ることがないことを説明した上で回答を求めた。研究への同意に関しては回答することによって同意が成立し、回答後の同意の撤回は出来ないことを説明した。個人情報に関しては、結果は個人が特定できないよう処理するため、関連学会等での公表時においても個人が特定されることはないことを説明した。eラーニング教材に登場する保育者役、保護者役を担った研究協力者に関しては、動画という形態で関連学会や研修会等で公表する場合があることを説明し同意を得た。

データの管理については、研究者間でデータを共有する際はパスワードを設定して研究者以外に閲覧できないよう処理すること、プリントアウトした場合は使用後直ちにシュレッダーに

かけて処分するようにした。

Ⅲ 結果と考察

1. eラーニング教材の開発

本研究では、IDプロセスの一般形であるADDIEモデル（Gagne, R.E et al, 2005）を援用して開発を行った。本研究では、分析、設計、開発までの流れを明らかにしていく。

1) 分析の段階

「①学びの目標・学んでもらいたい内容は何か?」「②保護者支援において現在の学生が抱えている課題は何か?」「③BLを実施した場合、学生が取組にくい状況（あるいは取組やすい状況）は何か?」といった問いを立てた。本研究者らで話し合った結果、以下のニーズが考えられた。

- ①学びの目標・学んでもらいたい内容は何か?
 - ・保護者との関係構築力として、「コミュニケーション力」「問題解決力」「チームでの連携力」を見出すことができるのではないか。
 - ・厚生労働省通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」で示されている「子育て支援」「子ども家庭支援論」の「教科目の教授内容」を参考にできるのではないか。
- ②現在の学生が抱えている課題は何か?
 - ・保護者と関わる機会が限られており、保護者支援に苦手意識を抱えている学生が多いのではないかな。
 - ・子どもへの関わりのみが強調され、保護者との関わりに必要性や重要性を感じていないのではないかな。
 - ・どのように関わればよいか、基本的な内容を理解する必要があるのではないかな。
- ③BLを実施した場合、学生が取組にくい状況（あるいは取組やすい状況）は何か?
 - ・オンライン学習として予習、復習を行う時間的余裕がないのではないかな。
 - ・単調で一方的な内容では、興味や関心、やりがいをもって取組めないのではないかな。

2) 設計の段階

ニーズ分析によって考えられた課題を考慮し、今回開発するeラーニング教材は、「保育所等を利用している保護者および地域の保護者との関係構築力を育むことを目標とすること」「保育者が日常の保護者との関わりで経験する頻度の高い場面を採用すること」「学生が苦手意識を持たないように基本的な内容とすること」「集中して取組めるように短時間でわかりやすい内容とすること」をまず確認した。そして、基本的なBLの流れを以下のように設計した。

①事前学習としてのeラーニング教材

「知識を伝達するための解説動画」+「視聴して課題に回答する保護者と保育者が関わる動画」



②アクティブラーニングを中心とした対面授業



③事後学習としてのeラーニング教材

知識の定着をはかるためにインタラクティブなクイズに回答する。

①→②→③→①→、という流れを適宜繰り返し、知識や技術の定着をはかることを目指す。

3) 開発の段階

今回は誌面の都合上、本研究者らが作成したeラーニング教材の中核的内容をなす「視聴して課題に回答する保護者と保育者が関わる動画」の開発にして明らかにする。設計の段階で示したように今回開発するeラーニング教材は、「保育所等を利用している保護者および地域の保護者との関係構築力を育むことを目標とすること」「保育者が日常の保護者との関わりで経験する頻度の高い場面を採用すること」とする。このような観点から以下の4つの場面を設定した。

場面①：トイレトレーニングに関する
相談の場面

2歳1か月の男児の母親から「子どものオムツがまだ外れずなんとかしたい」と相談される場面

場面②：子どもの園での様子(行事への参加)
を伝える場面

運動会の練習を行っている時期、5歳4か月の女児の母親から、子どもがお家で「園が楽しくない。行きたくない」と言っていると相談される場面

場面③：園の方針を保護者に伝える場面

3歳児クラスに進級後間もない女児(3歳5か月)が登園時、好きなアニメのキャラクターの本をどうしても園にもっていくと言ってきたが、泣いている。このような登園時の保護者と保育者の関わりの場面

場面④：仕事と育児の両立に悩む保護者に
関わる場面

職場復帰をして間もない頃、二人の子ども(1歳6か月の男児と4歳2か月の女児)を育てる母親は表情が暗く、育児にも自信をなくしている様子が見られる。このような保護者と保育者の関わりの場面

ここでは例として場面①「トイレトレーニングに関する相談の場面」のシナリオと動画のシーンの画像(スクリーンショット:図1)を示す。動画は保育者役と保護者役が一人ずつ登場するようにし、内容が分かりやすくなるようセリフをテロップとして挿入した。動画の長さは2分程度である。

今回詳しく記述できない他の場面も「状況を説明するナレーション」「保護者と保育者のやりとり」「課題」といった基本的な構成は同じであり、動画の長さも2～3分程度と同様である。

＜ナレーション：ある日のお迎え時＞

ある日、さとし君(2歳1か月)を迎えに来た母親のよし子さんから、「さとしのオムツがまだ外れずなんとかしたい」と担任保育者の斉藤さんに相談があった。母親が迎えに来たが、さとし君はまだクラスで電車を動かして遊びを楽しんでいます。

①よし子さん：「先生、相談があるんですけど、さとしのオムツを早く外したいです。どうしたらオムツが外れますか？」

②斉藤先生：

「そうですね。早くオムツを外したいとお考えなのですね。さとし君は園ではみんなと一緒にトイレに行って、トイレで出来る時もありますが、まだオムツにする時も多くあります。園としては様子を見ていましたが、今の時期にオムツを外したいなにか特別な理由がありますか？」

③よし子さん：「実は祖母から早くトイレトレーニングをはじめないと、オムツを取るのに時間がかかる」と言われてしまって。それで最近、トイレトレーニングを始めたのですが、家ではなかなかトイレに座ってくれないんです」

⇒設問①：あなたならどのように言葉かけしますか？

④よし子さん：「私はさとしの様子を見ると、そんなに焦らなくてもよいかとも思うのですが…。先生はどのようにお考えですか？」

⇒設問②：あなたならどのように言葉かけしますか？



図1 トイレトレーニングに関する相談の場面

2. 作成したeラーニング教材の評価

保育者と保護者から得られた回答の一部を以下のようにまとめることができた。

1) トイレトレーニングに関する相談の場面

(1) 保育者の課題を行った感想

- ・ 1～3歳児の担任を合わせて6年間やっているが毎年必ずある相談です。周りの子が外れているのに、3歳になったのに興味すら持たないという相談が本当にあります。園でトイレに行けたこと、トイレでの様子を伝えたり、おうちでの様子を共有してもらえるようにすることで、今後トイレを進めるにあたりアドバイスしやすくなる。
- ・ トイレはよく保護者からの相談があるのでイメージしやすかったです。
- ・ 保護者の気持ちが大切なので、まずはそこを聞くことを忘れてはいけないと感じる。また保護者によってはどうしても…という強い主張の方もいるのでそこは対応が難しい。

- ・ ちょうど2歳児クラスの担任で、トイレトレーニングについてはよく質問がありました。園だけや家庭だけでは進められないことなので、情報を共有しながら一緒に進めていく必要があると思います。
- ・ 幼稚園では基本的にオムツははずしてきているのでそこまでない事例だった。

「毎年必ずある相談」「よく保護者からの相談がある」といった回答があり、実際の保育場面で経験しうる場面であることが一定程度示された。ただし、「幼稚園では基本的にオムツははずしてきているのでそこまでない事例」といった回答もあり、教材の設定場面として保育所、認定こども園等の事例にするとといった配慮が必要であると感じられた。

(2) 保護者の課題を行った感想

- ・トイトレが一番世話をする母の課題の一つなので、共感できる場所が多々ありました。
- ・トイトレをする上で必ず誰かとしていた会話だなと思いました。
- ・現在私自身もトイトレの最中ですが、やはりうまくいかず悩む日々です。その中で保育園の先生方や周りの先輩ママさん・ママ友さんの情報やご意見は、どの本やネットの情報よりも参考になるし安心します。
- ・保護者だけの意向でなく親戚等の意見などで悩むことがあることを園側にも理解してもらえると嬉しいと思いました。

「共感できる場所が多々あった」「必ず誰かとする会話」といった意見が見られるなど、保護者としてもよくある場面として回答できたという意見が示された。

2) 子どもの園での様子(行事への参加)を伝える場面

(1) 保育者の課題を行った感想

- ・これも実際によくある相談でした。新しい挑戦へ不安を感じ、登園を渋る子もいるが、乗り越えることでまた成長できる行事でもあるため、自信がつくように声をかけ見守っていくことが大切だと改めて考え直すことができました。
- ・先日、少し似たような事例があった。すぐにわからないことはきちんと謝罪して状況確認することが大切だと、(中略)、思い出した。
- ・運動会や発表会など、本来は日頃の保育の延長で楽しんで参加できることが目標ですが子どもたちの中にはプレッシャーに感じてしまう子もあり、私自身もその時期は普段よりさらに保護者とのコミュニケーションや連携を大切にしています。

- ・「保育園に何か問題があるんじゃないか？」というクレームではなく、保護者はただ子どものことを心配している、という捉えで、保護者が安心できるような対応はどんなものかを考えました。
- ・「幼稚園行きたくない」は勤務先でもよくあります。その都度、子ども自身に責める姿勢にならないように、柔らかい空気の中で理由を聞き、理由が幼稚園にあるのか、ご家庭にあるのか、精神的なものなのか見極めるように心がけています。

「実際によくある相談」「先日、少し似たような事例があった」といった回答があり、実際の保育場面で経験しうる場面であることが一定程度示された。また、「保護者とのコミュニケーションや連携を大切にしています」「保護者が安心できるような対応はどんなものかを考えました」といった回答が見られ、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を形成していくことの大切さが述べられていた。

(2) 保護者の課題を行った感想

- ・保育園に行きたくないというのは親としては一番大変だと思います。園でも子どものその時々により添ってほしいと思う。
- ・保育者の「保護者の気持ちに寄り添う姿勢」は大事だなと思いました。
- ・息子も保育園に通わせていますが、やはり園と自宅では振る舞いもテンションもだいぶ違うことが多いと感じるので、園での我が子を先生がきちんと気にかけてくださるというのはとても心強いことだと感じました。
- ・どのようなお子さんかにもよると思います。深刻な問題を抱えていそうなのか、ちょっと困らせたいだけなのか、園では弱音を吐けないのか、複雑な感情が行きたくないという言葉でしか表現できないのか…普段の様子から推測しつつ対応するしかないのでは？と思いました。

「保護者の気持ちに寄り添う姿勢」「園での我

が子を先生がきちんと気にかけてくださるというのとはとても心強いことだと感じました」「普段の様子から推測しつつ対応するしかないのでは」といった回答が見られ、子どもの日々の様子をしっかりと保育者に捉えてほしいといった思いや願いが読み取れる。

3) 園の方針を保護者に伝える場面

(1) 保育者の課題を行った感想

- ・登園時、離れがたくなってしまう子はとても多いので、一人ひとりに寄り添って対応することの困難さや朝は保護者の方も急いでいることも多くゆっくり向き合うことの難しさを感じます。
- ・ルールはなぜあるのかを自分たちがわかっていても保護者からするとわからないことや時には理不尽に感じることもある。想いに寄り添いつつ、ルールを伝えていけるように言葉を選んだら相手の立場に立つことが大切だと感じた。
- ・実際に経験をしたことがあった。朝、泣いてくる子がいてお母さんがその場から離れられなくて困っているという経験は沢山あって、(中略)、不安が子どもに伝わるので私は泣いてても騒いでいてもすぐにこっちで子どもを預かることにしている。そうすると落ち着くことが多いと思った。
- ・勤め先の幼稚園でも似たようなことは多くあります。スタンプカードを作ったり、お守りを作って渡して登園へのモチベーションにつなげることもあります。

「登園時、離れがたくなってしまう子はとても多い」「勤め先の幼稚園でも似たようなことは多くあります」といった回答があり、実際の保育場面で経験しうる場面であることが一定程度示された。また、「想いに寄り添いつつ、ルールを伝えていけるように言葉を選んだら相手の立場に立つことが大切だと感じた」といった回答が見られ、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を形成していくことの大切さが述べ

られていた。

(2) 保護者の課題を行った感想

- ・ルールがある場合、そのルールができた背景を知ると保育者の方の日頃の努力がより伝わるように感じます。
- ・他のお子さんもいるので、難しいと思いますが、子どもの気持ちが落ち着くのであれば柔軟に考えるのも良いかと思います。
- ・年少さんでかつこのくらいのものであれば、今日はどうしても持ってきたかったのね、今日だけ特別よ、とまずは気持ちを受け止められるような寛容な園であってほしいと思います。こだわりが特に強い場合でも、園と家庭と連携して次の進級までに決まりを守れるようになればよいのでは？
- ・ルールを守った上でどうやってそのこだわりに少しでも寄り添えるか、先生にアドバイス頂けたら親としては有り難いと感じました。

「ルールができた背景を知る」といった回答からは、保育の意図を説明してほしいといった願いがうかがえた。また、「今日だけ特別よ、とまずは気持ちを受け止められるような寛容な園であってほしい」「ルールを守った上でどうやってそのこだわりに少しでも寄り添えるか」といった柔軟な対応を求める意見も見られた。

4) 仕事と育児の両立に悩む保護者に関わる場面

(1) 保育者の課題を行った感想

- ・実際に現場でも似たようなことがあり、自分なりに話を聞いたり気にかけて声をかけていました。それだけでも、ありがたいと言ってもらえることも多かったです。気にかけてくれると思えるだけで保護者の気持ちが軽くなるのかなと感じています。

- ・今まで受けたことのないタイプの保護者対応だったのと、母親の心境が自分が経験していないことだったので、実際の場面で上手に対応できるのか不安になった。
- ・実際こういった事例は共働きの方が多くいる保育園が多いのではないかと感じ難しかった。
- ・難しい課題だと思いました。現場でも実際保護者の方から相談を受けることもあって、自分がまだ経験してない内容（育児のこと等）がほとんどなので返答に迷うことも多くあります。保育士の先輩方は自分の経験談から保護者の方を励ましているのので、自分は自分の立場から保護者の方を応援できるようにと考えています。
- ・自分の置かれている環境や状況を誰かに聞いてもらえるだけでも心がすこし軽くなることもあるので気軽に相談したり話したりできる存在になりたいと思います。

「実際に現場でも似たようなことがあり」といった回答があった一方で、「今まで受けたことのないタイプの保護者対応」「難しい課題だと思いました」といった回答もあった。動画だけでは学生への教材として難しい課題と考えられた。授業で取り上げる際には、動画教材とあわせて対面での説明、ディスカッションなどを通して課題と検討することが必要と考えられた。

(2) 保護者の課題を行った感想

- ・仕事と育児、家事をどのようにバランスをうまく取るかという問題はいろんなママさんがぶつかる大きな壁かと思います。忙しくて日々険しい顔で子どもに接しているのではないかと、疲労と自己嫌悪が塗り固められていくイメージです。そんな中で少しでも気遣うような言葉をかけてくださったり子どもたちが元気に過ごせていることをお伝えいただくことは、とてもありがたく報われたような気持ちになり嬉しく感じます。

- ・保育者の方は保護者の表情まで見て言葉をかけていらっしゃるのかと重ね重ね驚きました。一見雑談のように見えますが、保護者の方のケアをされていたり、保護者の方をケアすることで園児が健やかに育てるよう配慮されたりと、保育者の方の仕事が多岐に渡ること感謝でいっぱいになりました。
- ・専業主婦なので、働く母親の気持ちを想像しながら回答させていただきました。
- ・この母親が本当に大変そうで、なんだか胸が締め付けられました。こういう母親が助けを求められる様な行政のサービスや民間のサービスをわかりやすく園に張ってくれたり冊子を渡してくれたりしたら、助かる人もいるかもしれないと思いました。

「保育者の方の仕事が多岐に渡ること」「行政のサービスや民間のサービスをわかりやすく園に張ってくれたり冊子を渡してくれたりしたら、助かる人もいるかもしれない」といった回答からは、この課題に取組むことで、保育者が多様な観点から保護者支援を行うことの大切さに気づいたといった内容が示されていた。

IV まとめと今後の課題

eラーニング教材の開発では、IDプロセスの一般形であるADDIEモデル (Gagne, R.E et al., 2005) を援用して開発を行った。ニーズ分析を行う中で、特に学生が抱えている課題、学生が取組にくい状況を本研究者らで見出した。分析を踏まえて設計、開発の段階では、「集中して取組めるように短時間でわかりやすい内容とすること」「保育者が日常の保護者との関わりで経験する頻度の高い場面を採用すること」「学生が苦手意識を持たないように基本的な内容とすること」を意識してeラーニング教材を作成した。

保育者や保護者に回答を求めたeラーニング教材の評価に関して、まず「保育者が日常の保護者との関わりで経験する頻度の高い場面を採用すること」という点では、場面①から場面④

とも、保育者の回答では、「毎年必ずある相談」「先日、少し似たような事例があった」「実際に経験をしたことがあった」といった回答があり、実際の保育場面で経験しうる場面であることが一定程度示された。ただし、場面①では、「幼稚園では基本的にオムツははずしてきているのでそこまでない事例」、場面④でも、「実際こういう事例は共働きの方が多くいる保育園が多いのではないかと感じ難しかった」といった回答があり、これらの場面の設定としては、保育所、認定こども園にするといった配慮が必要であると感じられた。

「学生が苦手意識を持たないように基本的な内容とすること」では、場面①では保護者の意見として、「共感できる場所が多々あった」「必ず誰かとする会話」といった意見が聞かれるなど、保護者としてもよくある場面として回答できたという意見が多かった。また、場面②、場面③で保護者の意見として共通して多かったのは、「保護者の気持ちに寄り添ってほしい」「気持ちを受け止めてほしい」「ルールがある場合は、そのルールができた背景を知らせてほしい」といった内容であった。「保育所保育指針」（厚生労働省、2017）第4章「子育て支援」では、保育所の特性を生かした子育て支援として、「保護者に対する子育て支援を行う際には、各地域や家庭の実態等を踏まえるとともに、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に、保護者の自己決定を尊重すること」と記されている。今回得られた保護者の意見と一致しており、保育者としての基本的な役割を学ぶことができる教材内容になっているのではないかと考えられる。

他方で、場面④「仕事と育児の両立の課題」では、保育者から難しい課題といった回答があり、動画だけでは学生への教材としても難しい課題と考えられた。授業で取り上げる際には、動画教材とあわせて対面での説明、ディスカッションなどを通して課題と検討することが必要と考えられた。

今後の課題としては、今回得られた保育者及び保護者の回答をもとにe-ラーニング教材の改善を進めていきたい。また、今回の研究では、教材の分析から開発までの段階に関して述べたが、今後は実際に学生への授業の実施、評価といったプロセスを通して教材による効果測定を行っていく。

【引用文献】

- Gagne, R. M., Wager, W.W., Golas, K. C. & Keller, J. M (2005). *Principles of Instructional Design* (5th edition). California: Wadsworth.
- Garner, R. & Rouse, E. (2016). Social presence – connecting pre-service teachers as learners using a blended learning model. *Student Success*, 7(1), 25-36.
- 石田開・田中まさ子（2011）保育者養成課程の学外実習における保護者に関する経験の頻度—保護者とのコミュニケーションスキル育成への手がかりとして—, 岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要43, 161-173
- 片山美香（2015）若手保育者による保護者支援の困難さと対応に関する検討—経験に基づく保育者としての成長過程に着目して—, 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 159, 11-20
- 厚生労働省（2017）「保育所保育指針」, フレーベル館
- Martín-Martínez, L., Sainz, V., & Rodríguez-Legendre, F. (2020). Evaluation of a blended learning model for pre-service teachers. *Knowledge Management & E-Learning*, 12 (2), 147-164.
- Muchael B. Horn・Heather Staker, 小松健二（訳）（2017）「ブレンディッド・ラーニングの衝撃」, 教育開発研究所
- 中平絢子・馬場訓子, 高橋敏之（2014）信頼関係の構築を促進する保育所保育士の保護者支援, 岡山大学教師教育開発センター紀要, 4, 63-71
- 成田朋子（2014）公開保育へのとりくみと保育

者の成長,名古屋柳城短期大学紀要, 9-18

小原敏郎・義永睦子・瑞穂優・田中佑子 (2017)

保育者のリアリティ・ショック尺度の作成,
保育者養成教育研究, 1, 13-23

立野貴之・館秀典・風岡たま代 (2018) 看護の
安全教育の学習支援システムと授業プログラ
ムの開発, 教育システム情報学会誌, 35 (2),
157-162

山住康恵・櫻井美奈・中村昌子・池田康子・横
山晶子・中原るり子 (2018) プレンディッド
ラーニングを用いた基礎看護技術の授業を試
みて: ベッドメイキングの単元を事例とし
て, 共立女子大学看護学雑誌, 5, 26-34

【謝辞】

本研究の調査にご協力いただいた保育者およ
び保護者の方に心から感謝申し上げます。また、
e-ラーニング教材に登場する保育者役、保護者
役を担ってくださった研究協力者に感謝いたし
ます。

【付記】

本研究の一部は、日本保育者養成教育学会第
6回大会で発表した。

本研究はJSPS科研費JP21K02388の助成を受
けたものである。